人間社会学部／社会福祉コース	職名	准教授	氏名	奥村　賢一

１．教員紹介・主な研究分野

同志社大学大学院社会学研究科社会福祉学専攻博士後期課程修了。博士（社会福祉学）。私が現在行っている主な研究テーマは以下の三点です。

一点目は、「学校ソーシャルワーク実践に関する研究」です。近年、複雑多様化する不登校・いじめ・非行等の教育課題を改善していくためにスクールソーシャルワーカーに求められる専門的役割や機能について実証研究を中心に行っています。二点目は、「児童虐待防止に向けた家族支援に関する研究」です。わが国の深刻な社会問題である児童虐待を早期発見・未然防止していくために求められる家族支援の具体的方法について研究を行っています。三点目は、「知的障害・発達障害（児）者の地域生活支援に関する研究」です。知的障害・発達障害（児）者の地域生活の充実を推進していく動きが広まりを見せていますが、利用可能な社会資源は限られており、障害特性に対応した専門的支援も不足しているのが現状です。このような状況を改善していくための一つの方策として、地域の有機的ネットワークを活用したソーシャルワークを研究しています。

２．研究業績

①最近の著書・論文

- 奥村賢一（2023）「障害者権利条約第 24 条「教育」の改善勧告（総括所見）を受けて－日本の特別支援教育とインクルーシブ教育システムの課題－」公益社団法人日本知的障害者福祉協会『さぽーと』70（2）38-44.
- 金澤ますみ・奥村賢一・郭理恵。野尻紀恵編（2022）『三訂版 スクールソーシャルワーカー実務テキスト』，学事出版.
- 奥村賢一（2022）「第４章　援助論としてのソーシャルワーク」「第 6 章　子どもと家庭に対する支援―虐待と貧困から捉える子ども家庭福祉―」「第 11 章　学校を拠点に実践を行うスクールソーシャルワーカー―子どもの教育保障に向けたソーシャルワーク―」横山登志子編『社会福祉実践とは何か』放送大学教育振興会.
- 奥村賢一（2022）「知的障害児・者の家族支援」公益社団法人日本知的障害者福祉協会『さぽーと』69（1）34-37.

②その他最近の業績

<学会発表>

- 奥村賢一（2022）「子ども虐待防止に向けた学校でのスクールソーシャルワーカーの役割」basic lecture 演者，日本子ども虐待防止学会第 28 回学術集会ふくおか大会，福岡サンパレス.
- 奥村賢一（2022）「自治体へのスクールソーシャルワーカー配置促進に向けた課題分析－小中学校教員と市町村教育委員会の認識から考える」コメンテーター，日本学校ソーシャルワーク学会第 16 回全国大会，課題別研究分科会，北星学園大学（オンライン）.

- 奥村賢一（2022）「研究の「問い」立てに必要な視野：実践の科学化、研究成果の社会実装」シンポジスト，日本学校ソーシャルワーク学会第 16 回全国大会，課題別研究分科会，北星学園
<報告書>
- Kenichi Okumura（2022）Parent Support Services -The role of School Social Worker-, Asia Network of School Social Work Newsletter , 6, 2-4.
- Kenichi Okumura（2020）Japanese School Social Workers in the Covid-19 Pandemic, Asia Network of School Social Work Newsletter , 1, 1-3.
<辞書>
- 奥村賢一（2021）「12　特別支援教育コーディネーター」一般社団法人日本ケアマネジメント学会編『ケアマネジメント事典』168-169.
- 奥村賢一（2021）「非行少年」「少年審判」「矯正教育／試験観察」中坪史典・山下文一・松井剛太ほか『保育・幼児教育・子ども家庭福祉辞典』ミネルヴァ書房，538-539.

③過去の主要業績

- 門田光司・奥村賢一（2009）『スクールソーシャルワーカーのしごとースクールソーシャルワーカーのための実践ガイド』中央法規出版.
- 奥村賢一（2009）「不登校児童生徒の状況改善に向けた家族支援の有効性に関する一考察ーパワー交互作用モデルを基盤にした学校ソーシャルワーク」『学校ソーシャルワーク研究』第 4 巻.
- 奥村賢一（2009）「ストレングスの視点を基盤にしたケースマネジメントの有効性に関する一考察ー軽度知的障害者の地域生活支援実践を通して」『社会福祉学』第 50 巻，第 1 号.

３．外部研究資金

- 科学研究費（基盤研究 C）「子スクール（学校）ソーシャルワーク実習・実習指導プログラムの開発」117 万円，令和３年度～令和５年度.
- 科学研究費（基盤研究 B）「子どもの貧困を支援するスクールソーシャルワークの介入プログラム構築とその評価」1,755 万円，令和元年度～令和４年度.

４．受賞

５．所属学会

日本社会福祉学会、日本学校ソーシャルワーク学会、日本ソーシャルワーク学会、日本子ども虐待防止学会、福岡県立大学社会福祉学会

６．担当授業科目

【学　部】不登校・ひきこもり援助論・２単位・１年・前期、子供学習支援論・１単位・１年・後期、相談援助実習指導Ⅰ・２単位・２年・通年、子ども家庭福祉論 A・２単位・２年・前期、相談援助実習指導Ⅱ・１単位・３年・通年、相談援助実習・４単位・３年・通年、相談援助演習 B・４単位・３年・通年、社会福祉学演習・４単位・３年・通年、相談援助演習 C・１単位・３

年・後期、学校ソーシャルワーク論・２単位・３年・後期、学校ソーシャルワーク実習指導・１単位・３年～４年・通年、学校ソーシャルワーク実習・２単位・４年・後期、家族福祉論・２単位・３年・後期、卒業論文・６単位・４年・通年

【大学院】特別研究Ⅰ・４単位・１年、特別研究Ⅱ・４単位・２年、子ども家庭福祉研究・２単位・１・２年・前期、子ども家庭福祉演習・２単位・１・２年・後期

７．社会貢献活動

一般社団法人福岡県スクールソーシャルワーカー協会・副会長

公益社団法人北九州市障害者相談支援事業協会・理事

NPO 法人福岡県子どもアドボカシーセンター・理事

日本学校ソーシャルワーク学会・査読委員

福岡県教育委員会スクールソーシャルワーカー・スーパーバイザー

福岡市教育委員会スクールソーシャルワーカー・スーパーバイザー

福岡市こども・子育て審議会・委員

福岡市登校支援対策会議・副委員長

福岡市いじめ防止対策推進委員会・副委員長

福岡県社会福祉審議会・臨時委員

田川市要保護対策地域協議会代表者会議・委員

香春町いじめ防止等対策委員会・副委員長

８．学外講義・講演

福岡県不登校児童生徒支援強化事業研修体制整備における研修会「不登校児童生徒への支援の在り方」福岡県教育センター，2023 年 2 月.

東京都足立区スクールソーシャルワーカー研修会「実践者のためのスーパービジョン」オンライン，2022 年 12 月.

熊本市教育委員会スクールソーシャルワーカー研修会「実践に基づいたスクールソーシャルワーカーの相談援助技術」オンライン，2022 年 11 月.

令和４年度福岡教師塾「積極的生徒指導を実現する学校経営―保護者や関係機関を巻き込むには―」福岡県教育センター，2022 年 9 月.

令和 4 年度福岡市中学校生徒指導研究会研修会「不登校生徒へのアプローチ－今の生徒指導に求められることー」オンライン，2022 年 6 月.

９．附属研究所の活動等

不登校・ひきこもりサポートセンター教員スタッフ